

この人、知っていますか？



校長室の前に、写真と先生の教育信条が掲示されていますが、気づいていましたか？ また、矢部の桑取藪に行くと、とても眺めのよい場所に、立派な石碑が建っています。是非、足を運んでみてください。

この方は、江碕 済（えさき わたる）先生です。明治期の漢学者で、「八女教学の祖」と呼ばれています。実は、矢部とは、とても縁が深い方なんです。副読本「八女ふる里学」には、以下のように紹介してあります。

江碕済は、1845年4月26日、久留米庄島の藩士の子として生まれました。彼は、10歳にして藩校である明善堂（現・福岡県立明善高等学校）に入って一生懸命に勉学にはげみましました。その姿は見るものを驚かせるほどで、寝食を忘れるほどに勉強に打ち込み、徹夜することも珍しくありませんでした。その後、久留米を出て筑前国（現・福岡市）や東京へ留学します。27歳の時に、久留米に戻ってくるのですが、当時は争いが絶えない時代でした。命を狙われるような事件も起こり、不安に思った彼は人里離れた矢部の桑取藪に身をひそめ、田畑を耕しながら穏やかに暮らしていました。ところが、彼に学びたい人はたいへん多く、わざわざ桑取藪まで訪ねてきて教を乞う者や地元の矢部や黒木の若者が訪ねてきて、学問を学ぶようになりました。

1872年（明治5年）明治政府より「学制」というきまりが出され、全ての子どもに教育を与えることができるようになり、1873年（明治6年）彼の尽力で矢部小学校が開校しました。しかし、当時の子どもは草刈りや薪拾い、子守りなど重要な働き手とされ、親たちに、子どもを学校に通わせるという考えはありませんでした。このような状況下、彼は山を越え、谷を渡って一軒一軒を訪問して学校教育の必要性を村人たちに話して回りました。その結果、村人たちの理解を得られるようになり、苦勞して集めることができたお金で校舎を建設しました。また、彼は、矢部小学校での教育に当たる一方で、漢学塾（矢部塾）を開きました。これは、向学心に燃えた若者に対して開かれたものでした。先生の開講の話はまたたく間に筑後一円に広がり、多くの若者が困難な山道を上って受講に訪れました。

その後、彼は黒木に移って「黒木塾」を開き、さらには、北川内小学校長として赴任後、北川内（現・上陽町）に移り住み、そして、黒木塾を北川内に移して学校名を「北訥義塾」と改名しました。このように、八女地方における近代教育のけん引力として大きな力を発揮し、地域の教育に貢献した人物が「江碕済（えさきわたる）」なのです。

諸君は 自らの知識を広げ 人格を高めて
立派な日本人として活躍してもらいたい。

知識を広げ 人格を高めて
それぞれの仕事に携わることが
今 一番大切なことである。

それには、農民であろうと 町民であろうと
すべてが学問をすることによって

人間は生まれながらにして
万人 平等である。

江碕済先生の教育信条

日本を西欧諸国に劣らない国にするためには学問を盛んにしないといけない。



新年度スタート！ 自分自身の目標をたてましょう！

さあ、新年度がスタートしました。9年生にとっては、義務教育最後の年です。自分の進路決定に向けて、自分自身をしっかり見つめ、一年後にどうなっていたいのかを考え、しっかり目標をたて、一日一日を大切に過ごしてほしいです。

自分の目標を達成させるためには、何をすべきか、具体的な解決策を考え、実行していくことが大切です。自分のどのようなところを伸ばしていくのか、どのようなところを改善していくのか、具体的に考えていきましょう。